

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	新潟工科専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	建築士学科	夜・通信	192 時間	160 時間	
	建築設計デザイン科	夜・通信	192 時間	160 時間	
	インテリアデザイン科	夜・通信	176 時間	160 時間	
	建築大工科	夜・通信	192 時間	160 時間	
	大工測量科	夜・通信	96 時間	80 時間	
	IoT 測量科（測量建設科）	夜・通信	176 時間	160 時間	
	電気・通信エンジニア科	夜・通信	180 時間	160 時間	
	建築士専攻科	夜・通信	112 時間	80 時間	
	一級建築士専攻科	夜・通信	192 時間	160 時間	
	建築士専攻・大学併修科	夜・通信	192 時間	160 時間	
	一級建築士専攻・大学併修科	夜・通信	272 時間	240 時間	
	ドローンソリューション専攻科	夜・通信	90 時間	80 時間	
	電気主任ライセンス専攻科	夜・通信	90 時間	80 時間	
(備考) 「測量建設科」は令和6年度入学生より「IoT 測量科」へ名称変更。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

[https://www.nit-web.net/assets/img/publicinfo/2024/exp\\_subject.pdf](https://www.nit-web.net/assets/img/publicinfo/2024/exp_subject.pdf)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟工科専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.nit-web.net/assets/img/publicinfo/2024/directors.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2023年6月 1日～2027 年5月31日	政策的観点
非常勤	団体職員	2023年6月 1日～2027 年5月31日	教育統括的視点
非常勤	弁護士	2023年6月 1日～2027 年5月31日	法的観点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟工科専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><b>【シラバス作成過程】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p><b>【シラバスの作成】</b></p> <p>作成者：当該科目の担当教員</p> <p>作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。</p> <p>内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p><b>【シラバスの運用】</b></p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。</p> <p>実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.nit-web.net/publicinfo_syllabus.html">https://www.nit-web.net/publicinfo_syllabus.html</a>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。 出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</li> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状況などの総合評価とする。</li> <li>5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</li> <li>6. 追試験の結果が60点以上であればC評価(合格)となるがB評価以上とはならない。</li> <li>7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。</li> <li>8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で4段階評価とする。</li> </ol> <p>S (100~90)    A (90~80)    B (79~70)    C (69~60)    D (59~0・不合格又は不受験)</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生毎に履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。(100点満点で点数化)</li> <li>2. 指標の数値データ分布範囲(レンジ)を5点とする。</li> <li>3. 各レンジに該当する人数を分布表として表記する。</li> <li>4. 上記の分布表をヒストグラムで表す。</li> <li>5. 上記成績分布表より下位1/4に該当する人数及び該当する指標の数値を割り出す。</li> </ol>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.nit-web.net/publicinfo_gpa.html">https://www.nit-web.net/publicinfo_gpa.html</a></p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業認定の方針として以下の教育目標（3つのポリシー）を設定する。  <b>【アドミッションポリシー】</b> 本校の求める人材像目標  <b>【ディプロマポリシー】</b> 本校の卒業認定としての能力目標  <b>【カリキュラムポリシー】</b> 本校のディプロマポリシー実現に向けた教育課程編成方針</p> <p>学修成果の評価項目  教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。  <b>【教育課程修了の認定方針】</b>  次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。  1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。  2. 成績評価が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。  上記により、卒業時に修了すべき教育科目を取得しない者は、卒業延期とし、当該科目を取得した時期に卒業を認定する。  本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p><b>【教育課程修了の認定実施状況】</b>  上記学則に則り以下の取組を実施している  1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。  2. 各科目において評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状況などの総合評価を行う。  3. その結果から、教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<a href="https://www.nit-web.net/publicinfo_credit.html">https://www.nit-web.net/publicinfo_credit.html</a>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	新潟工科専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.nit-web.net/publicinfo/finance.html">https://www.nit-web.net/publicinfo/finance.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.nit-web.net/publicinfo/finance.html">https://www.nit-web.net/publicinfo/finance.html</a>
財産目録	<a href="https://www.nit-web.net/publicinfo/finance.html">https://www.nit-web.net/publicinfo/finance.html</a>
事業報告書	<a href="https://www.nit-web.net/publicinfo/finance.html">https://www.nit-web.net/publicinfo/finance.html</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://www.nit-web.net/publicinfo/finance.html">https://www.nit-web.net/publicinfo/finance.html</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築士学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,704 単位時間	672 単位時間	160 単位時間	848 単位時間	24 単位時間	0 単位時間
		1,704 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150人		107人	0人	4人	9人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）
<p>【シラバス作成過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p>【シラバスの作成】</p> <p>作成者：当該科目の担当教員          作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。          内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p>

<p><b>【シラバスの運用】</b>  公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。  実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>
<p><b>成績評価の基準・方法</b></p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>授業開始時に出席を確認する。</li> <li>全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。  出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</li> <li>評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状況などの総合評価とする。</li> <li>定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</li> <li>追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。</li> <li>各科目の評価方法で成績評価を算出する。</li> <li>成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。</li> </ol> <p><b>【令和4年度入学者】</b>  A (100～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p> <p><b>【令和5年度入学者】</b>  S (100～90) A (90～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p>
<p><b>卒業・進級の認定基準</b></p> <p>(概要)</p> <p>教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。</p> <p><b>【教育課程修了及び進級の認定方針】</b>  次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。</li> <li>各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。</li> </ol> <p>上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。  本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p><b>【教育課程修了の認定実施状況】</b>  上記学則に則り以下の取組を実施している</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各学期が終了した時点で出席率を算出する。</li> <li>各学期末にて定期考査を実施する。</li> <li>各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。</li> <li>その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。</li> </ol>



学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・定期的（1回／月）なクラス状況報告会の実施</li> <li>・随時個別相談及び指導の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
61人 (100%)	54人 ( 88.5%)	5人 ( 8.2%)	2人 ( 3.3%)
(主な就職、業界等) 総合建設業（建築施工管理）、住宅メーカー（営業）			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習等を実施。</li> <li>・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。</li> <li>・進路相談室の就職活動支援。</li> <li>・定期的（1回／月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。</li> </ul>			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
2級建築施工管理技術検定学科試験合格	46名		
Revit Architecture ユーザー試験	59名		
建築CAD検定2級	26名		
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
115人	2人	1.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任制およびスクールカウンセリング体制</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有</li> </ul>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築設計デザイン学科 (建築デザイン科)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,720 単位時間	624 単位時間	192 単位時間	880 単位時間	24 単位時間	0 単位時間
			1,720 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人	43人	1人	2人	8人	10人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要)
<p><b>【シラバス作成過程】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p><b>【シラバスの作成】</b></p> <p>作成者：当該科目の担当教員  作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。  内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p><b>【シラバスの運用】</b></p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。  実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>
成績評価の基準・方法
(概要)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。  出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</li> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状況などの総合評価とする。</li> </ol>

<p>5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</p> <p>6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。</p> <p>7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。</p> <p>8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。</p> <p>【令和4年度入学者】 A（100～80） B（79～70） C（69～60） D（59～0・不合格又は不受験）</p> <p>【令和5年度入学者】 S（100～90） A（90～80） B（79～70） C（69～60） D（59～0・不合格又は不受験）</p>
--

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要） 教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。</p> <p>【教育課程修了及び進級の認定方針】 次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。</li> <li>2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。</li> </ol> <p>上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。 本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p>【教育課程修了の認定実施状況】 上記学則に則り以下の取組を実施している</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。</li> <li>2. 各学期末にて定期考査を実施する。</li> <li>3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。</li> <li>4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。</li> </ol>
--

<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・定期的（1回／月）なクラス状況報告会の実施</li> <li>・随時個別相談及び指導の実施</li> </ul>
---

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
<p>卒業生数</p>	<p>進学者数</p>	<p>就職者数 （自営業を含む。）</p>	<p>その他</p>
<p>19人 （100%）</p>	<p>12人 （ 63.2%）</p>	<p>6人 （ 31.6%）</p>	<p>1人 （ 5.3%）</p>
<p>（主な就職、業界等） 総合建設業（建築施工管理）、建築設計事務所（設計）、住宅メーカー（設計）、工務店（建築施工管理）</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習等を実施。</li> </ul>			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。</li> <li>・進路相談室の就職活動支援。</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。</li> </ul>	
（主な学修成果（資格・検定等））	
2級建築施工管理技術検定学科試験合格	16名
Revit Architecture ユーザー試験	19名
建築CAD検定2級	5名
（備考）（任意記載事項）	

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任制およびスクールカウンセリング体制</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	インテリアデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,744 単位時間	720 単位時間	176 単位時間	848 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1,744 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		53人	0人	2人	8人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>【シラバス作成過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p>【シラバスの作成】</p> <p>作成者：当該科目の担当教員</p> <p>作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。</p> <p>内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p>【シラバスの運用】</p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。</p> <p>実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。</li> </ol> <p>出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状況などの総合評価とする。</li> </ol>	

<p>5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</p> <p>6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。</p> <p>7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。</p> <p>8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。</p> <p>【令和4年度入学者】 A（100～80） B（79～70） C（69～60） D（59～0・不合格又は不受験）</p> <p>【令和5年度入学者】 S（100～90） A（90～80） B（79～70） C（69～60） D（59～0・不合格又は不受験）</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>概要） 教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。</p> <p>【教育課程修了及び進級の認定方針】 次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。</li> <li>2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。</li> </ol> <p>上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。 本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p>【教育課程修了の認定実施状況】 上記学則に則り以下の取組を実施している</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。</li> <li>2. 各学期末にて定期考査を実施する。</li> <li>3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。</li> <li>4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。</li> </ol>
<p>学修支援等</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・定期的（1回／月）なクラス状況報告会の実施</li> <li>・随時個別相談及び指導の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21人 (100%)	6人 ( 28.6%)	11人 ( 52.4%)	4人 ( 19.0%)
（主な就職、業界等） 工務店（住宅設計、営業）、建築専門工事業（技能職）			
（就職指導内容） ・クラス担任制の採用 ・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習等を実施。			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。</li> <li>・進路相談室の就職活動支援。</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。</li> </ul>
(主な学修成果(資格・検定等)) インテリアコーディネーター 3名 色彩検定3級 22名 建築CAD検定3級 24名 商品装飾展示技能検定3級 2名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52人	3人	5.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任制およびスクールカウンセリング体制</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築大工科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,736 単位時間	624 単位時間	80 単位時間	1008 単位時間	24 単位時間	0 単位時間
			1,736 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	43人	1人	2人	8人	10人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）
<p><b>【シラバス作成過程】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p><b>【シラバスの作成】</b></p> <p>作成者：当該科目の担当教員</p> <p>作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。</p> <p>内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p><b>【シラバスの運用】</b></p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。</p> <p>実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>
成績評価の基準・方法 （概要）
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。</li> </ol> <p>出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状況などの総合評価とする。</li> </ol>



<p>5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</p> <p>6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。</p> <p>7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。</p> <p>8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。</p> <p>【令和4年度入学者】 A（100～80） B（79～70） C（69～60） D（59～0・不合格又は不受験）</p> <p>【令和5年度入学者】 S（100～90） A（90～80） B（79～70） C（69～60） D（59～0・不合格又は不受験）</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>概要） 教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。</p> <p>【教育課程修了及び進級の認定方針】 次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。</li> <li>2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。</li> </ol> <p>上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。 本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p>【教育課程修了の認定実施状況】 上記学則に則り以下の取組を実施している</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。</li> <li>2. 各学期末にて定期考査を実施する。</li> <li>3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。</li> <li>4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。</li> </ol>
<p>学修支援等</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・定期的（1回／月）なクラス状況報告会の実施</li> <li>・随時個別相談及び指導の実施</li> </ul>

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	10人 (40.0%)	15人 (60.0%)	0人 (0.0%)
<p>（主な就職、業界等） 総合建設業（建築施工管理）、工務店（大工職）</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習等を実施。</li> </ul>			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。</li> <li>・進路相談室の就職活動支援。</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。</li> </ul>	
（主な学修成果（資格・検定等））	
2級建築施工管理技術検定学科試験合格	24名
建築大工技能検定3級	15名
建築大工技能検定2級	10名
建築CAD検定3級	16名
（備考）（任意記載事項）	

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46人	2人	4.3%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任制およびスクールカウンセリング体制</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	大工測量科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	896 単位時間	96 単位時間	80 単位時間	720 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			896 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		0人	0人	2人	8人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>【シラバス作成過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p>【シラバスの作成】</p> <p>作成者：当該科目の担当教員</p> <p>作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。</p> <p>内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p>【シラバスの運用】</p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。</p> <p>実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。</li> </ol> <p>出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状況などの総合評価とする。</li> </ol>	

5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。  
 6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。  
 7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。  
 8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。  
 S（100～90） A（90～80） B（79～70） C（69～60） D（59～0・不合格又は不受験）

卒業・進級の認定基準

概要)  
 教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。  
**【教育課程修了及び進級の認定方針】**  
 次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。  
 1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。  
 2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。  
 上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。  
 本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。

**【教育課程修了の認定実施状況】**  
 上記学則に則り以下の取組を実施している  
 1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。  
 2. 各学期末にて定期考査を実施する。  
 3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。  
 4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。

学修支援等

(概要)  
 ・クラス担任制の採用  
 ・定期的（1回/月）なクラス状況報告会の実施  
 ・随時個別相談及び指導の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)

(主な就職、業界等)  
 令和5年度は在籍0名、卒業実績なし

(就職指導内容)  
 ・クラス担任制の採用  
 ・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習等を実施。  
 ・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。  
 ・進路相談室の就職活動支援。  
 ・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。

(主な学修成果(資格・検定等)) 令和5年度は在籍0名、実績なし
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
-人	-人	-%
(中途退学の主な理由) 令和5年度は在籍0名、実績なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任制およびスクールカウンセリング体制 ・定期的(1回/月)なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気・通信エンジニア科 (旧：電気電子工学科)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,705 単位時間	892 単位時間	0 単位時間	813 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1,705 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
45人		39人	1人	3人	7人	10人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) (概要)
<p><b>【シラバス作成過程】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p><b>【シラバスの作成】</b></p> <p>作成者：当該科目の担当教員  作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。  内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p><b>【シラバスの運用】</b></p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。  実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>
成績評価の基準・方法 (概要)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。</li> </ol> <p>出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状</li> </ol>

<p>況などの総合評価とする。</p> <p>5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</p> <p>6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。</p> <p>7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。</p> <p>8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。</p> <p>【令和4年度入学者】 A (100～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p> <p>【令和5年度入学者】 S (100～90) A (90～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>概要)</p> <p>教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。</p> <p>【教育課程修了及び進級の認定方針】</p> <p>次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。</li> <li>2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。</li> </ol> <p>上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。</p> <p>本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p>【教育課程修了の認定実施状況】</p> <p>上記学則に則り以下の取組を実施している</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。</li> <li>2. 各学期末にて定期考査を実施する。</li> <li>3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。</li> <li>4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。</li> </ol>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・定期的（1回／月）なクラス状況報告会の実施</li> <li>・随時個別相談及び指導の実施</li> </ul>

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23人 (100%)	3人 ( 13.0%)	20人 ( 87.0%)	0人 ( 0.0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>電気工事業（電気技術者、施工管理）、通信業（電気通信技術者）</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習</li> </ul>			

等を実施。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。</li> <li>・進路相談室の就職活動支援。</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。</li> </ul>	
（主な学修成果（資格・検定等））	
2級電気工事施工管理技術検定学科試験合格	15名
第一種電気工事士	16名
第二種電気工事士	12名
（備考）（任意記載事項）	

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	0人	0%
（中途退学の主な理由） 進路変更等		
（中退防止・中退者支援のための取組）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任制およびスクールカウンセリング体制</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有</li> </ul>		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	IoT 測量科 (旧：測量建設科)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間	992 単位時間	160 単位時間	512 単位時間	48 単位時間	0 単位時間
			1,704 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		37人	0人	2人	5人	7人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) (概要)	
<p><b>【シラバス作成過程】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p><b>【シラバスの作成】</b></p> <p>作成者：当該科目の担当教員  作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。  内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p><b>【シラバスの運用】</b></p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。  実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>	
成績評価の基準・方法 (概要)	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。  出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</li> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状</li> </ol>	

<p>況などの総合評価とする。</p> <p>5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</p> <p>6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。</p> <p>7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。</p> <p>8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で4段階評価とする。 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。</p> <p><b>【令和4年度入学者】</b> A (100～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p> <p><b>【令和5年度入学者】</b> S (100～90) A (90～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p>
<p><b>卒業・進級の認定基準</b></p> <p>概要) 教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。</p> <p><b>【教育課程修了及び進級の認定方針】</b> 次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。</li> <li>2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。</li> </ol> <p>上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。 本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p><b>【教育課程修了の認定実施状況】</b> 上記学則に則り以下の取組を実施している</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。</li> <li>2. 各学期末にて定期考査を実施する。</li> <li>3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。</li> <li>4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。</li> </ol>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・定期的（1回／月）なクラス状況報告会の実施</li> <li>・随時個別相談及び指導の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	6人 ( 35.3%)	11人 ( 64.7%)	0人 ( 0%)
(主な就職、業界等)			
測量業（測量技術者）、建設コンサルタント（測量技術者）、総合建設業（土木施工管理）			

(就職指導内容)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス担任制の採用</li> <li>・ 一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習等を実施。</li> <li>・ 就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。</li> <li>・ 進路相談室の就職活動支援。</li> <li>・ 定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。</li> </ul>	
(主な学修成果（資格・検定等））	
2級土木施工管理技術検定学科試験合格	12名
測量士補	6名
(備考) (任意記載事項)	
上記の就職実績・学修実績は旧名称である環境測量科の実績を含みます。	

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	1人	3.2%
(中途退学の主な理由)		
進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任制およびスクールカウンセリング体制</li> <li>・ 定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築士専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	820 単位時間	400 単位時間	0 単位時間	420 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			820 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		54人	0人	2人	8人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p><b>【シラバス作成過程】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p><b>【シラバスの作成】</b></p> <p>作成者：当該科目の担当教員</p> <p>作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。</p> <p>内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p><b>【シラバスの運用】</b></p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。</p> <p>実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。</li> </ol> <p>出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状況などの総合評価とする。</li> </ol>	

<p>5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</p> <p>6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。</p> <p>7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。</p> <p>8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で4段階評価とする。 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。</p> <p>【令和4年度入学者】 A (100～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p> <p>【令和5年度入学者】 S (100～90) A (90～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p>
--

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>概要) 教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。</p> <p>【教育課程修了及び進級の認定方針】 次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。</li> <li>2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。</li> </ol> <p>上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。 本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p>【教育課程修了の認定実施状況】 上記学則に則り以下の取組を実施している</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。</li> <li>2. 各学期末にて定期考査を実施する。</li> <li>3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。</li> <li>4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒用証書を授与する。</li> </ol>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・定期的（1回／月）なクラス状況報告会の実施</li> <li>・随時個別相談及び指導の実施</li> </ul>

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
69人 (100%)	1人 ( 1.4%)	67人 ( 97.1%)	1人 ( 1.4%)
<p>(主な就職、業界等) 総合建設業（建築施工管理、建築設計、営業）、住宅メーカー（施工管理）、建築事務所（設計、CADオペレーター）</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習</li> </ul>			

等を実施。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。</li> <li>・進路相談室の就職活動支援。</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。</li> </ul>	
（主な学修成果（資格・検定等））	
2級建築士	36名
福祉住環境コーディネーター2級	6名
（備考）（任意記載事項）	

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
71人	2人	2.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更等		
（中退防止・中退者支援のための取組）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任制およびスクールカウンセリング体制</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	一級建築士専攻科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,936 単位時間	1,000 単位時間	0 単位時間	936 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1,720 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		26人	0人	2人	5人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>【シラバス作成過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p>【シラバスの作成】</p> <p>作成者：当該科目の担当教員</p> <p>作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。</p> <p>内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p>【シラバスの運用】</p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。</p> <p>実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。</li> </ol> <p>出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状況などの総合評価とする。</li> </ol>	

<p>5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</p> <p>6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。</p> <p>7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。</p> <p>8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で4段階評価とする。 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。</p> <p>【令和4年度入学者】 A (100～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p> <p>【令和5年度入学者】 S (100～90) A (90～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p>
--

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>概要) 教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。</p> <p>【教育課程修了及び進級の認定方針】 次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。</li> <li>2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。</li> </ol> <p>上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。 本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p>【教育課程修了の認定実施状況】 上記学則に則り以下の取組を実施している</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。</li> <li>2. 各学期末にて定期考査を実施する。</li> <li>3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。</li> <li>4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。</li> </ol>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・定期的（1回／月）なクラス状況報告会の実施</li> <li>・随時個別相談及び指導の実施</li> </ul>

<p>卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
<p>卒業者数</p>	<p>進学者数</p>	<p>就職者数 (自営業を含む。)</p>	<p>その他</p>
<p>5人 (100%)</p>	<p>0人 (0%)</p>	<p>5人 (100%)</p>	<p>0人 (0%)</p>
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>総合建設業</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習</li> </ul>			



等を実施。 ・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。 ・進路相談室の就職活動支援。 ・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。
（主な学修成果（資格・検定等）） 1級建築士 学科合格3名、最終合格1名
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・担任制およびスクールカウンセリング体制 ・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築士専攻・大学併 修科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,770 単位時間	1,290 単位時間	0 単位時間	480 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1,740 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		21人	0人	3人	7人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）	
<p><b>【シラバス作成過程】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p><b>【シラバスの作成】</b></p> <p>作成者：当該科目の担当教員  作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。  内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p><b>【シラバスの運用】</b></p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。  実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>	
成績評価の基準・方法 （概要）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。  出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</li> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状</li> </ol>	

<p>況などの総合評価とする。</p> <p>5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</p> <p>6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。</p> <p>7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。</p> <p>8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で4段階評価とする。 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。</p> <p>【令和4年度入学者】 A (100～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p> <p>【令和5年度入学者】 S (100～90) A (90～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>概要) 教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。</p> <p>【教育課程修了及び進級の認定方針】 次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。</li> <li>2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。</li> </ol> <p>上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。 本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p>【教育課程修了の認定実施状況】 上記学則に則り以下の取組を実施している</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。</li> <li>2. 各学期末にて定期考査を実施する。</li> <li>3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。</li> <li>4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。</li> </ol>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会の実施</li> <li>・随時個別相談及び指導の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)
(主な就職、業界等) 令和5年度に設置したため、令和5年度の実績はなし			
(就職指導内容) ・クラス担任制の採用			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習等を実施。</li> <li>・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。</li> <li>・進路相談室の就職活動支援。</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。</li> </ul>
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級建築士 最終合格2名
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任制およびスクールカウンセリング体制</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	一級建築士専攻・大学併修科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,884 単位時間	1,906 単位時間	0 単位時間	978 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1,720 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		3人	0人	3人	7人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p><b>【シラバス作成過程】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p><b>【シラバスの作成】</b></p> <p>作成者：当該科目の担当教員</p> <p>作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。</p> <p>内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p><b>【シラバスの運用】</b></p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。</p> <p>実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。</li> </ol> <p>出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状</li> </ol>

<p>況などの総合評価とする。</p> <p>5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。</p> <p>6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。</p> <p>7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。</p> <p>8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で4段階評価とする。 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。</p> <p>【令和4年度入学者】 A (100～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p> <p>【令和5年度入学者】 S (100～90) A (90～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>概要) 教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。</p> <p>【教育課程修了及び進級の認定方針】 次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。</li> <li>2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。</li> </ol> <p>上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。 本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。</p> <p>【教育課程修了の認定実施状況】 上記学則に則り以下の取組を実施している</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。</li> <li>2. 各学期末にて定期考査を実施する。</li> <li>3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。</li> <li>4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。</li> </ol>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス担任制の採用</li> <li>・定期的（1回／月）なクラス状況報告会の実施</li> <li>・随時個別相談及び指導の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)
(主な就職、業界等) 令和5年度に設置したため、令和5年度の実績はなし			
(就職指導内容) ・クラス担任制の採用			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習等を実施。</li> <li>・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。</li> <li>・進路相談室の就職活動支援。</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。</li> </ul>
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級建築士 最終合格1名
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任制およびスクールカウンセリング体制</li> <li>・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ドローンソリューション専攻科				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	810 単位時間	330 単位時間	165 単位時間	315 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			810 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		8人	0人	2人	1人	3人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
<p>（概要）</p> <p><b>【シラバス作成過程】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p><b>【シラバスの作成】</b></p> <p>作成者：当該科目の担当教員</p> <p>作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。</p> <p>内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p><b>【シラバスの運用】</b></p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。</p> <p>実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次回の授業改善に役立てる。</p>						
成績評価の基準・方法						
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。</li> </ol> <p>出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状</li> </ol>						



況などの総合評価とする。  
 5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。  
 6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。  
 7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。  
 8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。  
 S（100～90） A（90～80） B（79～70） C（69～60） D（59～0・不合格又は不受験）

**卒業・進級の認定基準**

概要)  
 教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。  
**【教育課程修了及び進級の認定方針】**  
 次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。  
 1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。  
 2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。  
 上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。  
 本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。  
**【教育課程修了の認定実施状況】**  
 上記学則に則り以下の取組を実施している  
 1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。  
 2. 各学期末にて定期考査を実施する。  
 3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。  
 4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。

**学修支援等**

(概要)  
 ・クラス担任制の採用  
 ・定期的（1回/月）なクラス状況報告会の実施  
 ・随時個別相談及び指導の実施

**卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）**

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)

(主な就職、業界等)  
 令和6年度開設のため、卒業実績なし

(就職指導内容)  
 ・クラス担任制の採用  
 ・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習等を実施。  
 ・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。  
 ・進路相談室の就職活動支援。

・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。
（主な学修成果（資格・検定等）） 令和6年度開設のため、実績なし
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
-人	-人	-%
（中途退学の主な理由） 令和6年度開設のため、実績なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・担任制およびスクールカウンセリング体制 ・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気主任ライセンス 専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	810 単位時間	810 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			810 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		3人	0人	1人	2人	3人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）	
<p>【シラバス作成過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の教育理念、アドミッションポリシー、ディプロマポリシーを理解する。</li> <li>2. 各学科の教育目標、カリキュラムポリシーを理解する。</li> <li>3. 該当学科についてカリキュラム内容を理解する。</li> <li>4. シラバスの作成ガイドラインを確認する。</li> <li>5. 該当科目の授業内容と方法を確認する。</li> <li>6. 該当科目の到達目標を確認する。</li> <li>7. 評価方法と成績評価基準を確認する。</li> <li>8. 準備学習を計画する。</li> <li>9. テキスト、教材、参考図書を選択する。</li> <li>10. 履修上の注意を確認する。</li> </ol> <p>【シラバスの作成】</p> <p>作成者：当該科目の担当教員</p> <p>作成時期：前期分は前年度末までに作成する。後期分は前期終了するまでに作成する。</p> <p>内容確認：当年度前期及び後期の授業開始前までに学科長・教務部長が確認する。</p> <p>【シラバスの運用】</p> <p>公表時期：担当教員は学生に対して、第一回目の授業開始時、全員に配布し、シラバスの内容について説明を行う。一般公表については当年度前期及び後期授業開始時にHPに公開する。</p> <p>実績報告：担当教員は授業が終了した後、シラバスの内容について教務部へ実績報告を行う。それについては、学生の成績・目標到達度を参考に次の授業改善に役立てる。</p>	
成績評価の基準・方法 （概要）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスに則り授業を実施する。</li> <li>2. 授業開始時に出席を確認する。</li> <li>3. 全ての授業が終了したところで、出席率を算出し90%に達しているかを確認する。</li> </ol> <p>出席率が90%未満の場合は科目保留となる。その場合、当年度の2月に進級及び卒業判定会議を行い、科目認定試験の受験を認めるかどうかの判定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 評価テストや普段の取組姿勢、出席率、レポートや宿題、実習・演習課題提出状</li> </ol>	

況などの総合評価とする。

5. 定期考査の結果が60点未満の場合は追試験を行う。

6. 追試験の結果が60点以上であればC評価（合格）となるがB評価以上とはならない。

7. 各科目の評価方法で成績評価を算出する。

8. 成績評価は100点満点換算で次の基準で評価する。

S (100～90) A (90～80) B (79～70) C (69～60) D (59～0・不合格又は不受験)

**卒業・進級の認定基準**

(概要)

教育課程修了の認定及び卒業については学則第五章で次のように定める。

**【教育課程修了及び進級の認定方針】**

次に該当する、各学年における本校所定の教育課程を修了した者には、認定を行う。

1. 学科・実技ともに90%以上の出席が認められた者。
2. 各学年の各学期末に行う定期考査の成績が、全ての科目においてC評価（100点満点中60点以上）であること。

上記により、卒業時・進級時に終了すべき教育科目を取得しない者は、卒業及び進級を延期とし、当該科目を取得した時期に卒業及び進級を認定する。

本校所定の全教育課程を修了した者には、その認定を行い卒業証書を授与する。

**【教育課程修了の認定実施状況】**

上記学則に則り以下の取組を実施している

1. 各学期が終了した時点で出席率を算出する。
2. 各学期末にて定期考査を実施する。
3. 各科目毎に評価方法・成績評価基準により成績評価する。
4. その結果から、全教育課程修了の認定を受けた者に対し、卒業式にて卒業証書を授与する。

**学修支援等**

(概要)

- ・クラス担任制の採用
- ・定期的（1回/月）なクラス状況報告会の実施
- ・随時個別相談及び指導の実施

**卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）**

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)

(主な就職、業界等)

令和6年度開設のため、卒業実績なし

(就職指導内容)

- ・クラス担任制の採用
- ・一般科目での就職実務で就職への意識付け、履歴書・礼状・作文等の指導、面接練習等を実施。
- ・就職行事として就職セミナー、模擬面接会、校内企業説明会の実施。
- ・進路相談室の就職活動支援。

・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で就職活動状況報告の実施。
（主な学修成果（資格・検定等）） 令和6年度開設のため、実績なし
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
-人	-人	-%
（中途退学の主な理由） 令和6年度開設のため、実績なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・担任制およびスクールカウンセリング体制 ・定期的（1回/月）なクラス状況報告会で退学抑止対象者の情報共有		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記 載事項)
建築士学科	100,000円	710,000円	430,000円	
建築設計デザイン科	100,000円	710,000円	430,000円	
インテリアデザイン科	100,000円	710,000円	430,000円	
建築大工科	100,000円	710,000円	430,000円	
大工測量科	100,000円	710,000円	430,000円	
IoT 測量科 (旧: 測量建設科)	100,000円	760,000円	430,000円	
電気・通信エンジニア科	100,000円	720,000円	460,000円	
建築士専攻科	50,000円	630,000円	300,000円	
建築士専攻・大学併修科	50,000円	630,000円	300,000円	
一級建築士専攻科(1年次)	50,000円	1,150,000円	300,000円	
一級建築士専攻科(2年次)	-	310,000円	150,000円	
一級建築士専攻・大学併修科 (1年次)	50,000円	1,150,000円	300,000円	
一級建築士専攻・大学併修科 (2・3年次)	-	630,000円	300,000円	
ドローンソリューション専攻科	100,000円	630,000円	300,000円	
電気主任ライセンス専攻科	100,000円	630,000円	300,000円	
修学支援(任意記載事項)				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.nit-web.net/publicinfo.html">https://www.nit-web.net/publicinfo.html</a>
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 学校が、実践的な職業教育等を目的とした自ら教育活動その他の学校運営について、目指す目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、学校として組織的、継続的、断続的な説明により、適切に説明責任を果たすと共に、学校関係者から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりが進められる。そして、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の実践的な職業教育の質を保証し、向上が図れる。以上を基本理念とし、次の項目を基本方針とする。

1. 学校は、学校関係者として、関連企業、高等学校から委員を6名選任し学校関係者評価委員会を組織する。
2. 学校長は年二回以上学校関係者評価委員会を招集し、学校関係者評価委員会を開催する。
3. 学校が行う自己評価、授業アンケート、学校向上アンケートをもとに、学校関係者評価を行う。
4. 評価項目は以下のとおりとする。
  - (1) 教育理念・目標
  - (2) 学校運営
  - (3) 教育活動
  - (4) 学修成果
  - (5) 学生支援
  - (6) 教育環境
  - (7) 学生の受入れ募集
  - (8) 財務
  - (9) 法令等の遵守
  - (10) 社会貢献・地域貢献
4. 学校関係者評価委員会は学校が行った自己評価結果に対して次の基本評価項目とする。
  - A 自己評価の結果の内容が適切かどうか。
  - B 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。
  - C 学校の重点目標や自己評価項目等が適切かどうか。
  - D 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか。
5. 学校関係者評価委員会は評価結果報告をまとめ、学校に報告する。
6. 学校は学校関係者評価委員会の報告を受け学校運営の改善に努める。

#### 学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社 総合資格 新潟校	令和6年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
株式会社 クレイズプラン	令和6年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
株式会社 イートラスト	令和6年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
株式会社 イートラスト	令和6年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
学校法人大彦学園 開志学園高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日	高等学校

#### 学校関係者評価結果の公表方法

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.nit-web.net/publicinfo.html>

#### 第三者による学校評価 (任意記載事項)

--

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.nit-web.net/publicinfo.html>